

平成25年度長崎大学がんプロ養成基盤推進プラン在宅・地域医療実習

実習生：川上 悠介

実習先：白髭内科医院

実習期間：平成27年4月20日（月）～6月1日（月）

実習生感想：

今回大学院がんプロ実習の一環で、在宅医療の実施という貴重な体験をさせていただきましたので報告いたします。

4/20(月)~6/1(月)までのうちの月曜日の中で、計5日間ほど白髭内科医院にお世話になり、在宅医療実習を体験しました。まずは仕事内容の日課ですが、朝8時30分より医院の隣に建っている特別養護老人ホーム『みぎわほ一む』の回診を行います。『みぎわほ一む』では小規模ユニット型(定員18名)ショートステイとデイサービスを行っており、回診ではショートステイ病棟2つのうち、朝礼で『みぎわほ一む』で働く看護師や介護師から報告の上上がった患者（例えば熱発や転倒など）を中心に診察し、必要に応じて薬の処方など行いました。



その後は、医院に戻り診察を行い、昼休み明けの14時ころから Dr. car に乗って、その日回る在宅へと診察に向かうという流れでした。



自宅へ往診したり、急変あるとの連絡が入ればグループホームなどの施設へと駆けつけたりしました。



その中で特に印象に残っているのが、前の市民病院院長で整形外科を勤めあげてこられ、現在御年 90 歳にてお元気でいらっしゃる三原先生ご夫妻です。今なお自伝書を書かれるほどにしっかりとされておられ、診察の際には貴重な昔のお話を聞くことができ、なおかつ三原先生の自伝書をありがたく頂きまして、先生の過ごされた日々を感じながら毎日熟読し勉強させていただいております。



今回の実習を通じ、白髭先生には長崎で独自に発展させていった **Dr. net** システムの素晴らしさを教えて頂きました。将来、この活動に取り組むかどうかは現時点では分かりませんが、このような素晴らしいシステムがあることを体感でき、自分が外科医として診療にあたる際には是非とも **Dr. net** を活用し、在宅診療の力添えになれるようにしていきたいと強く感じました。

また看護師の柳井さんからは、聞き書きというお年寄りの話を聞いて、それを記録し後世に残すというボランティア活動のことを学びました。お年寄り本人は忘れていた記憶がよみがえり脳の活性化に役立つことができ、家族にはお年寄りが故人となられた際にその生前の想いを知ることができるグリーフケアに活用できたり、また話を聞く我々にはお年寄りからの貴重な経験を学ぶ機会を得ることができるといった素晴らしい効果があるものであると感じました。

今回の実習を通じまして、このような機会を下さったがんプロ関係者の方々、並びに熱心に教えて頂きました白髭先生はじめ医院のスタッフの方々に厚く御礼を申し上げまして結びとさせていただきます。



実習後オリエンテーションにて

